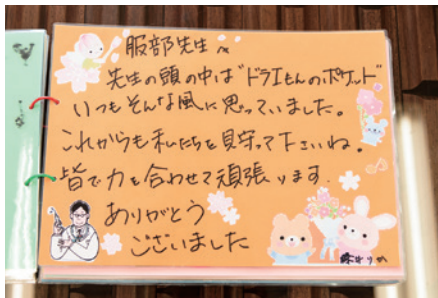
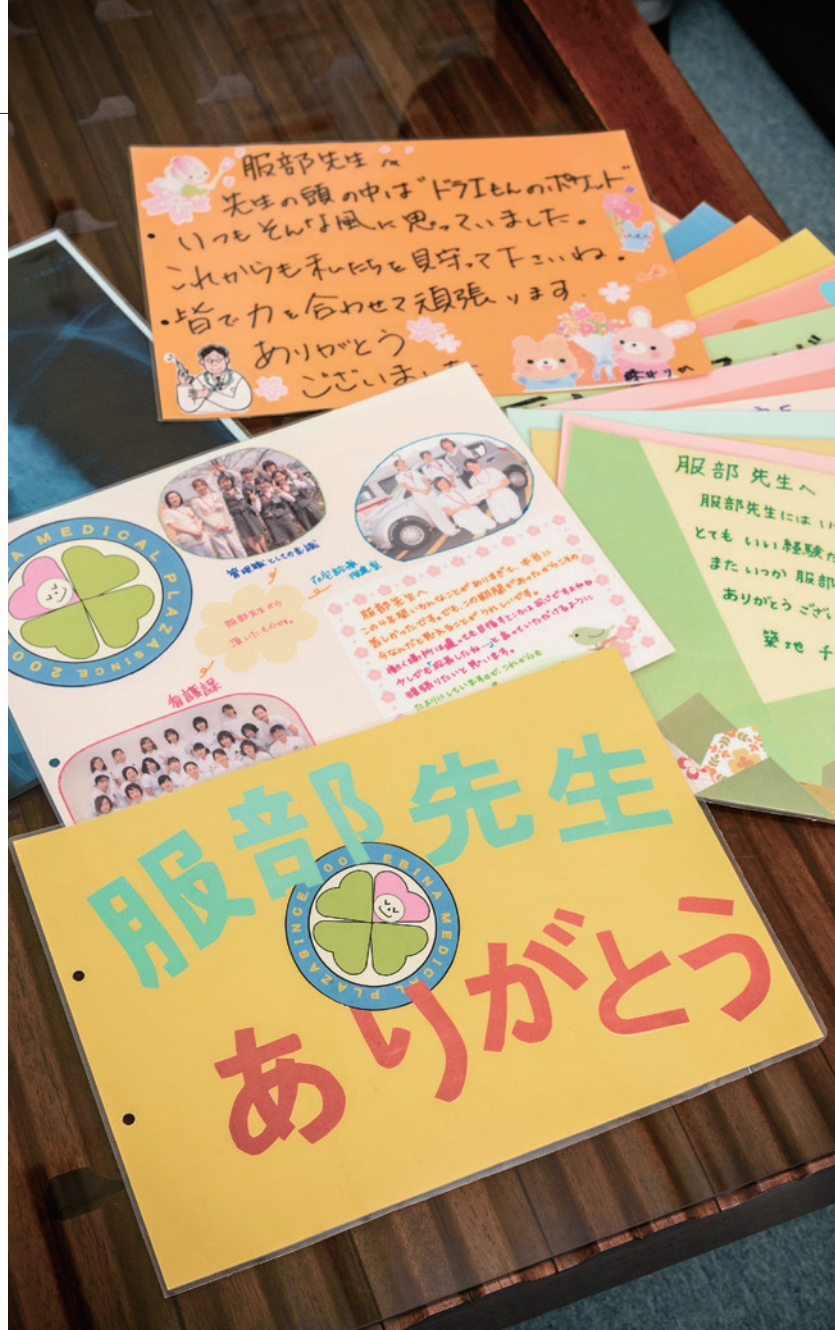




社会医療法人
ジャパンメディカルライアンス
海老名総合病院
服部智任 病院長

メッセージアルバム 厳しい言葉の裏にある 医療への思いが通じた証



「ドラえもん」のポケットに例えられる服部病院長の発想力。スタッフからの尊敬がうかがえる

海 老名総合病院の病院長に就く以前、当院の向かいにあるサテライトクリニック「海老名メデイカルプラザ」で院長を務めていました。このアルバムはクリニックを離れ、当院に異動する際に職員一同からいただいたものです。

今でも方針自体は変わりませんが、クリニックにいた頃は「厳しい院長」だったと思います。専門職の集団であるせいか、医療職はそれぞれ職人意識が強く、ともすれば業務に対して不干渉であることを望みがちです。しかし、私は患者さんのための医療提供には、「組織が一丸となったチーム医療」の整備が必要不可欠だと思います。そのために必要な取り組みを徹底しました。毎週、院内リーダーが集まる会議を設置し、患者情報や経営状況などの共有も欠かさず行っていたので、負担に感じるスタッフも少なくなかったことでしょう。

だからこそ、アルバムを贈られた時は本当に驚きました。「苦しかったけれど、だからこそ今がある。そう思うことが嬉しい」など、普段厳しく指導していた看護師をはじめ、多職種それぞれが思いのたけを綴ってくれています。皆が私の真意をきちんと汲み取ってくれていたのだとしみじみと感じました。

現在、当院の病院長になりましたが、うまくいかないことも多々あります。そんな時、院長室の書棚に置いてあるこのアルバムを引っ張り出しては眺め、スタッフの言葉に勇気をもらっています。